

2019 年度第 4 回日本地球化学会理事会議事録

日時：2020 年 1 月 25 日（月）14:00-17:00

場所：JAMSTEC 東京事務所

出席者：鍵 裕之，益田 晴恵，南 雅代，板井 啓明，川口 慎介，服部 祥平，福士 圭介，
鈴木 勝彦，大野 剛，高野 淑識，日高 洋，浅原 良浩，土岐 知弘，太田 充恒，
飯塚 毅，横山 哲也，角野 浩史，張 勁，小畑 元（地球化学編集長），蒲生 俊敬
（監事），山本 鋼志（監事）

ZOOM 出席者：角皆 潤，奈良岡 浩，原田 尚美

欠席者：寺田 健太郎，藪田 ひかる，折橋 裕二（年会幹事）

1. 審議事項

1.1. 倫理規程（資料 1）

倫理綱領作成に関わる経緯説明が益田理事から報告された。倫理綱領の素案（資料 1）
を基に，修正案を次回理事会で審議し，総会で承認する手続きをとる方針が示された。

1.2. 名誉会員推薦委員会の構成員

名誉会員推薦委員会で推薦者を検討中である旨が益田理事より報告された。規程では
上限 10 名程度となっている（現在 9 名）。柴田賞受賞者は候補に挙がるのではないか
との意見や，研究業績に優れ，かつ学会の運営に貢献してきた人を候補とするのが良い
との意見があった。引き続き名誉会員推薦委員会で議論することとなった。

1.3. Water rock interaction 国際会議(WRI)の共催と貸付

資料 2 に基づき，益田理事より WRI の共催および貸付の依頼があったことが説明され
た。協議の末，WRI の共催に加わることに，さらに，開催準備資金として 50 万円の貸
付の依頼があり，学会が赤字になっても必ず返済することを条件で，開催委員長の土屋
氏への貸付が承認された。一般社団法人が貸付することが手続き上問題ないことを確
認することとなった。

1.4. Goldschmidt 2024 の日本開催（鍵，横山：資料 3）

鍵代表理事より，資料 3 に基づき，Geochemical Society の V.C. Bennett 会長から日本で
2024 年の Goldschmidt を開催する可能性についての打診があったことが説明された。
これを受け，横山国際幹事から国際対応委員会で議論した Goldschmidt 日本開催のメ
リット・デメリットが報告され，この報告をもとに議論が交わされた。でてきた意見
として，1 週間丸々借りられる大きな会場があるかどうかチェックする必要がある，
開催するためにはデメリットを列挙し，解決可能かどうかを議論すべき，引き受ける
場合にも，これまでの日本開催の時よりも仕事を減らすべき，2024 年の JPGU-AGU

joint meeting が Pacifico Yokohama で行われるため、他の会場の方が良い、等があった。最終的に、『2024 年度の Goldschmidt の日本開催について、会場の候補や見積もりを Geochemical Society に提示した上で、先方より最終的な打診を受けた場合には、本会として受け入れる』を議案として決をとったところ、22 名中 19 名が賛成を示し、本案は承認された。

1.5. Goldschmidt 2020 若手支援プログラムの講師

Goldschmidt2020 で若手支援プログラムとして JSPS の情報（資料 4）を紹介することとなった。

1.6. 講師派遣について（資料 5）

講師派遣の受託体制の記載について：『謝金は不要です』および『一人の講師の派遣は年に一度』という文言を削除することが承認された。また、派遣先を小中高に限定するような文言は無くすように変更することが承認された。

1.7. 理事の旅費支払い（浅原：資料 7）

旅費規程案（資料 7）が提案され、誤字等の修正の上、承認された。

1.8. 寄付金の募集方法と使い道について

若手支援の一環として、『学生発表優秀賞・奨励賞の受賞者に対し、翌年の学会参加費を無料とする』ことが提案され、審議を経て承認された。運営方法については、2020 年度年会 LOC および会計幹事が検討することとなった。

1.9. 年会予定、セッション見直し、ショートコース・若手会（資料 8）

2021 年度の年会は、高知大学開催で高知コアセンターのメンバーが中心となって LOC を組織することが提案され、承認された。また、今後の学生発表賞の審査には要旨内容も考慮することが承認された。2020 年度の年会は、4 日間に渡って開催することが承認された。さらに、special session を 2 会場のみで同時開催し、一つは環境汚染について、もう一つは日中シンポジウムのセッションとすることが提案された。2020 年度年会セッションの構成について引き続き検討していくこととなった。

1.11. GJ 賞（資料 9）

GJ 賞候補者の選考過程についての説明と、学会賞受賞者選考委員会による選考結果が報告され、Orthous-Daunay et al., 2019 の受賞が承認された。

1.12. 会員の確保にむけた方策

大野会員幹事から資料10にもとづき、20代、30代の会員数が減少していることが報告された。若い世代の会員数を向上させるため、学部生は無料とし、博士パックコース（現状は学生2年パックコースがあり、それに加えて学生3年パックコース）の新設が提案された。本変更には規程の変更が必要であるため、会員幹事の提案にもとづき、「会員および会費規程」の修正案を作成することが承認された。さらに、会員が9名増えたことが報告された。また、現状では学生パック終了時に自動的に会員に変更することとなっているが、滞納による除籍処分対象者が増えているため、パック期間終了後は自動退会とすることが提案された。会員会費規程の変更が必要であるため、今後規程の変更手続きを進めていく。

2. 報告事項等

- 2.1. 庶務・総務：テラパブ・国際文献との契約書の確認を資料11にもとづき行った。鳥居・井上基金の報告書（資料12）が報告された。さらに、共催の報告、山田科学財団の推薦、今後の理事会スケジュール（資料13）について報告された。
- 2.2. 会計：学会の今後の財政の見通し、および寄付制度の現状が資料7に基づいて報告された。
- 2.3. 広報：資料14にもとづき活動報告が、資料15に基づきMLの確認がなされた。また学会ブースの運用方法を広報委員会で今後検討することとなった（資料6）。
- 2.4. 国際：2国間シンポジウムと国際対応のこれまでの活動経緯が資料16に基づき報告された。
- 2.5. 企画：今後のスケジュール等（資料8）
- 2.6. GJ: 資料17に基づき発行・編集状況が、資料18に基づき今後の編集体制が報告された。
- 2.7. その他：資料19に基づき、小畑地球化学編集委員長から、今後の合冊化の可能性について報告があった。